

各教科等のシラバス

事 例

平成 1 5 年 1 1 月 版

- * ここに示した事例は、栃木県総合教育センターの指導主事が作成したものです。

解説 シラバスの事例作成について

(1) シラバスを活用する目的

新たにシラバスを作成する際に、既存の資料との違いをどのようにとらえたらよいか問題となります。学校によっては、学習の手引きを改訂し、シラバスとして活用する場合があります。総合学科や単位制高校では、科目（講座）案内などのガイダンスの資料としてシラバスを活用することもあります。シラバスを活用する目的はさまざまですが、生徒の視点に立った場合、おおむね次のようなことが想定されます。

科目（講座）の選択や履修のための参考にする。
各教科・科目の学び方や学ぶ心構えなどを確認する。
課題提出やテストのスケジュールをもとに、計画的に学習を進める。
学習の進度や目標の達成状況をチェックし、成果と課題を把握する。

、 を主な活用の目的とした場合、学習の手引きや科目案内などの既存の資料とシラバスは似た内容となります。本資料では、 の目的で利用できるようなシラバスの事例作成に取り組みました。

(2) 作成上の工夫及び留意点

本資料では、各教科・科目等の事例を作成する際に、以下のような点に留意したり、工夫を試みたりしました。

- ・ 学習指導要領とその解説だけでなく、教科書も参考にする。
- ・ 生徒が学習計画や展開等の見通しをもつことができるように、学習内容・活動、課題、提出物やテストについて、できるだけ具体的に記述する。
- ・ 年間指導計画等の予定内容に関しては、実施の過程で変更することが想定されるため、年間の学習計画をまとめて示す方法だけでなく、学期ごとに配布する方法も検討する。
- ・ 学習計画の中で、学習のねらいや到達目標を示す場合、学習内容との対応が明らかになるよう形式を工夫する。
- ・ 生徒がシラバスを用いて学習を振り返れるように、チェック項目やチェック欄を設定する。

7 評価

評価にあたっては、知識や技能などの把握しやすい観点だけでなく、複数の観点に基づく評価を重視する。また、意欲的に授業に参加したり、テストや課題に取り組むことができるように評価方法を具体的に記述することが大切である。

なお、評価の観点や評価方法を記載するほか、年間指導計画と同様に、学習計画に評価項目（評価規準）の欄を設定し、具体的な学習内容との関連を示す方法もある。

8 学習計画

学期 学習計画表

| 月 | 主な学習内容・活動 | 学習のねらい・到達目標 ・評価項目（評価規準） | 学び方のアドバイス 課題、テスト範囲 |
|---------------------------------|------------------------------|--|-----------------------------------|
| | （例）学習のガイダンス | （例）授業の進め方を把握する。 | （例）予習、復習の方法を確認する。 |
| | （例）テーマ「 インターネットを用いて調べよう。 | （例）テーマに関連するキーワードに着目し、情報を収集・整理できる。 | （例）各自、レポートを作成し提出する。 |
| | （ポイント1） 単元（内容のまとめ）ごとに区切る。 | （ポイント2） 到達目標は、「 できる。」 というように記述するのに対して、評価規準に示されるような行動目標については、「 する。」「 しようとする。」などとして記述を工夫する。 | （ポイント3） 自主的な取り組みを促すような内容を記載する。 |
| 提出物：形式、提出期限、評価方法等を記載する。 | | | |
| テスト：期日、出題方針、補充学習や発展学習の方法等を記載する。 | | | |

（補足）作成やその後の改善にあたっては、生徒の意見を取り入れ、絵や図表等を適切に挿入するなど、読みやすく、視覚的にとらえやすいように編集することも大切です。